

研究初心者を対象とする思考支援としての メンターを含むグループ活動の検討

Examining Group Activities with Mentors as Thinking Support for Novice Researchers

久保田真一郎* 徳永恵理子**
Shin-Ichiro Kubota* Eriko Tokunaga**

*熊本大学 **株式会社コーチ&リサーチ
*Kumamoto University
**Coach and Research Inc.

<あらまし> 研究経験のない大学院生が研究を開始する際の支援が重要な課題となっている。本研究では、研究初心者を対象に実施したメンターを含むグループ活動を実施し、参加者アンケートからその課題を検討した。そのグループ活動では、研究構想を図式化した研究構想マップを用い、教員等との少人数ディスカッションとリフレクションを通して次の行動を明確にすることを目的としている。アンケートの結果から、活動を通して研究計画が明確になったとしながらも、研究構想マップを作成する事前準備の不安や活動での研究構想マップを使った説明方法の不安が問題としてあげられた。

<キーワード> 研究リテラシー, 研究初心者, 思考支援

1. はじめに

この報告では、研究初心者を対象とする思考支援としてのメンターを含むグループ活動について、その実践と参加者アンケートの結果をもとに今後取り組む課題を報告する。

研究経験のない大学院生が研究を開始する際の支援は、大学院教育における重要な課題である。研究初心者は、研究テーマの設定や研究計画の立案に加え、自身の研究構想を他者に説明することにも困難を感じやすく、研究リテラシー形成の初期段階でつまづくことが少なくない(Yang 2020)。

Begum・Yesmin(2025)の調査によると、メンターや指導者の支援が研究技能形成に寄与することが示されており、メンターによる研究のレビューが効果をもつことが期待される。Fallon(2024)は、学部生の研究経験において、主たるメンターの関わり方や教育的配慮が研究経験の質に直接的な影響を及ぼすことを指摘しており、メンターを含むグループ活動が研究経験の質向上に効果を持つことが期待される。そこで、研究初心者を対象に、メンターを含む少人数グループ活動を通じて研究構想を検討する実践を行った。この報告では、この活動が研究初心者の思考支援としてどのように機能したのか、また、どのような課題があるかをアンケート結果から検討する。

2. メンターを含むグループ活動の概要

実施するグループ活動では、研究初心者が自身の取り組みや研究構想を研究構想マップとして事前に図式化し、それをもとにグループ活動を行う。各グループには、研究経験を有する教員等がメンターとして参加し、研究初心者とともにディスカッションを行う。

グループ活動は、研究初心者が発表者となり、発表者による簡潔な研究構想の説明から始まり、その後、メンターを含む少人数での質疑を通して、発表者が研究課題や研究計画を検討する。グループに複数の発表者がいる場合は、発表と質疑を順番に行い、最後に、リフレクションの時間を設け、参加者が次に取るべき行動を明確にすることを目的とする。このように、本活動は、研究構想の可視化と対話を組み合わせた思考支援の場として設計されている。

研究構想マップは、鈴木(2022)の講演で紹介されており、向後(2016)で示された教育工学の教育方法に関する研究フレームワークをもとに作成されたものである。

3. グループ活動とアンケートの実施

グループ活動は、2025年10月5日に行い、メンターを交代して3回のグループ活動を行った。メンターは第1著者が所属する組織の教員9名で、参加者は21名であった。グループは、メンター1名とメンティー2から3名

で構成し、メンティー1名につき15分の持ち時間で、メンティーが研究構想マップをもとに研究構想を説明し、それにメンターまたは他のメンティーと質疑する形式で実施した。メンティー全員の発表後には、休憩とリフレクションをかねて15分間確保した。メンティー3名の発表・質疑とリフレクションをあわせて1つのグループ活動とし、3回行った。グループ活動を1回行ったあとは、メンターを入れ替えて次のグループ活動を行った。

活動終了後に実施したアンケートでは、主に以下の点について回答を求めた。

- 良かったところを具体的に教えてください
- 改善すべき点を具体的に教えてください
- 研究構想マップについて、良かったところ、改善すべき点について自由に教えてください

4. アンケート結果の概要

アンケート結果からは、参加者が、グループ活動を通して研究計画が明確になったという回答がみられた。一方で、研究構想マップを事前に作成する段階での不安や活動中に研究構想マップを用いて自分の考えを説明することへの不安が挙げられた。

具体的には、良かったところとして、「アウトプットイメージの具体化」「研究の方向性が具体的に」「明日からやることもわかり」「研究の前提、アプローチ方法、今後の具体的な手順」などの記述がみられた。

改善すべき点としては、「今の方法で良い」など満足している様子や「頻度を増やしてほしい」という実施方法に関すること、「隣の距離が近い」「1テーブルあたりの人数は2人まで」などの環境に関すること、「自分の準備不足」「アウトプットを練習」などの事前準備に関する記述がみられた。

研究構想マップについては、「思考が視覚的に整理しやすい」「思考のとりかかりが良い」などの可視化を意識した意見がみられ、「使い方の説明」「限られた紙面の中でまとめる能力」「対象や前提、新規性など必ず聞かれる内容を書く項目」「書き方に悩む」「見本の提示」「記載のポイントなどが書かれた資料」など参加者が期待する支援などを収集できた。

これらの結果は、研究構想マップが思考を整理する支援として一定の効果を持つ一方で、

研究初心者にとってはその作成や活用自体が新たな負荷となり得ることを示している。

5. まとめ

この研究では、研究初心者を対象とするメンターを含むグループ活動の実践とアンケート結果から明らかになった課題について報告した。

結果から、本活動は研究計画の明確化を支援する思考支援として機能する一方で、研究構想マップの事前準備やそれを使用した説明方法に対する不安といった課題が存在することが示唆された。今後は、研究構想マップの作成支援や説明方法に関する足場かけを充実させることで、研究初心者にとってより負担の少ない思考支援の設計を検討する必要がある。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP25K15389 の助成を受けたものです。

参考文献

- Begum H. and Yesmin S. (2025) Impact of research supervisors' support on novice researchers' competency: proposing an online information literacy module for research support. *Global Knowledge, Memory and Communication*, <https://doi.org/10.1108/GKMC-09-2024-0593>
- Fallon, M.E. (2024) A Graduate Student's Mentorship Pedagogy for Undergraduate Mentees. *Biomed Eng Education* 4, 1-14
- 向後千春 (2016) 教育工学の教育. 日本教育工学会第32回全国大会発表論文集: 719-720
- 鈴木克明 (2023) 教育デザイン研究の実装と普及 ~未来を見据えた評価の視点~. 第14回日本医療教授システム学会システム学会総会・学術集会 教育企画
- Yang, W. (2020) Learning to Design Research: Students' Agency and Experiences in a Master of Education Program in Hong Kong. *ECNU Review of Education*, 3(2), 291-309.